



門真四中だより

「つながる」「わかる」「切り拓く」

令和5(2023)年6月23日

第21号

編集・発行：校長 上甲 尚

沖縄慰霊の日 ～伝え継ぐこと、知ることが大切です～



(犠牲者の名前が刻まれた「平和の礎」)

今日6月23日は「沖縄慰霊の日」です。1945(昭和20)年6月23日、沖縄戦が終結した日とされ、沖縄戦で亡くなられた人々を慰霊するために「沖縄全戦没者慰霊祭」がしめやかに行われます。

日本で唯一の「地上戦」が行われた沖縄。多くの一般市民が巻き込まれ、約24万人もの尊い命が失われました。「ひめゆり学徒隊」「集団自決」をはじめ、数え切れないぐらい

悲しく、おどく、筆舌に尽くしがたい出来事がありました。戦後78年経ち、沖縄戦を体験した人がだんだん少なくなるとともに、戦争が「遠い出来事」のようになりつつあります。しかし、世界に目を向けると、ロシアのウクライナ侵攻をはじめ、いまだに悲惨な戦争や紛争、内戦が絶えません。今こそ、「命」の尊さに思いをはせなければならない時ではないでしょうか。

4年前の「慰霊祭」で、糸満小学校6年生の山内玲奈さんが自作の詩を読み上げました。皆さんにぜひ読んでほしいので紹介します。

「本当の幸せ」(平和の詩)

青くきれいな海 この海は どんな景色を見たのだろうか

爆弾が何発も打ち込まれ ほのおで包まれた町

そんな沖縄を見たのではないだろうか

緑あふれる大地 この大地は どんな声を聞いたのだろうか

けたたましい爆音 泣き叫ぶ子 兵士の声や銃声が入り乱れた戦場

そんな沖縄を聞いたのだろうか

青く澄みわたる空 この空は どんなことを思ったのだろうか

緑が消え町が消え希望の光を失った島 体が震え心も震えた

いくつもの尊い命が奪われたことを知り そんな沖縄に涙したのだろうか

平成時代 私はこの世に生まれた

青くきれいな海 緑あふれる大地 青く澄みわたる空しか知らない私

海や大地や空が七十四年前 何を見て 何を聞き 何を思ったのか

知らない世代が増えている

体験したことはなくとも 戦争の悲惨さを 決して繰り返してはいけないことを

伝え継いでいくことは 今に生きる私たちの使命だ

二度と悲しい涙を流さないために この島がこの国がこの世界が 幸せであるように
お金持ちになることや 有名になることが 幸せではない

家族と友達と笑い合える毎日こそが 本当の幸せだ

未来に夢を持つことこそが 最高の幸せだ

「命どう宝」^{ぬち} 生きているから笑い合える 生きているから未来がある

令和時代 明日への希望を願う新しい時代が始まった

この幸せをいつまでも

(2019年6月23日 糸満小学校6年 山内玲奈)



すごく思いが伝わってくる、素晴らしい詩だと思いませんか。この詩から、何かを感じてくれたらと思います。

私は何度か沖縄に行ったことがあります(すべて仕事辛みですが)、本当に海がきれいです。サトウキビ畑が広がり、自然も豊かです。食べ物もおいしいです。本場の「エイサー」は迫力が違います。

至るところに「シーサー」が飾られています。そのほかにも琉球王朝時代から続く独特の文化がたくさん残っています。世界中から大勢の観光客が訪れる素晴らしいところです。

その一方で、悲しい歴史もあります。米軍の広大な基地があり、米軍機が飛び交い、米兵が街を闊歩しています。沖縄の人たちにとっては、戦争はまだ終わっていないと言えるのかもかもしれません...

2年生「ボッチャ体験」



2年生は20日(火)の6時間目、門真市社会福祉協議会の方にお越しいただき、「ボッチャ体験」を行いました。

ボッチャは、年齢・性別・障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が一緒に競い合えるスポーツです。上から投げても下から投げてもあるいは蹴ってもいいというものです。ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに赤・青のそれぞれ6球ずつの

ボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競うスポーツです。1984年からパラリンピックの正式競技になりました。アイマスクをして参加する生徒もいて、少々戸惑いながらも、楽しそうに協力しながらボッチャに興じていましたね。

期末テストまであと5日になりました。テスト対策勉強は順調ですか?明日、あさっての土日は時間がたっぷりあるので、時間を有効に、計画的に勉強に取り組んでほしいと思います。やる時にはやる!自分のベストを尽くす!そんな人をめざしましょう。

Never put off till tomorrow what you can do today. (今日できることを明日に延ばすな)